



7月の園だより

令和8年7月1日

目黒区立祐天寺保育園 園長

～子どもの心が動く時…何かに向かう気持ち～

梅雨明けが待ち遠しい季節ですが、子どもたちは晴れ間が見えると園庭へと元気に飛び出しています。

5月から始まった保育参観（3、4、5歳児クラスは参加）にはたくさんの保護者の方にご来園いただいています。黒色Tシャツ、黒色半ズボン姿の方に理由を伺うと「子どもたちと思いきり遊ぶと聞いたので、どろんこになっても良いようにしました」と笑顔で答えていただき、日頃の保育内容にご理解をいただいている実感が持てとてもうれしく感じました。園庭のどろんこ遊びには近隣の保育園も遊びに来ていて、誰が祐天寺保育園の子どもたちか分からないくらい開放的です。「0歳児も遊ぶのですね」と驚きの声も聞きますが園内研修である職員が「這い這いしている子どもに、どろんこはどうかと悩んだりしたが、大きいクラスの子どもの笑い声に心が動いて這い這いで向かっていく姿は止められないです」と話していたことが印象的でした。子どもたちが何かに心が動いて向かおうとする瞬間を一緒に楽しめる環境でありたいと思っています。

一足早く『プール開き』をしました。「水の精」がくれた魔法の水を入れて「安全にこの夏も楽しめますように」とみんなで願いました。毎朝の検温やプール、水遊びの身支度準備がありますが、子どもたちが笑顔で思いきり夏の遊びを楽しめるようにご協力をよろしくお願いいたします。



7月の行事

七夕集会（3、4、5歳児）

笹焼き（3、4、5歳児）

避難訓練・身体計測



《各クラスの砂あそび・泥あそびの様子》

砂、水の性質に触れながら不思議さを感じたり変化を発見したりしています。

ちゅうりっぷ組

0歳児クラス「さわってみよう」

洗面器いっぱいに入れた砂に水をまぜトロトロの泥を作ってみると、初めは“これなんだろう”とじーっと見つめていました。保育士が触れて真っ黒になった手のひらを見せると、ますます“なにこれー”と目を丸くして驚いていた子どもたちです。そのうち保育士の手についた泥をそーっと指先で触ってみたり、異年齢の子どもたちが泥遊びする姿を見たりして、少しずつ興味が湧いてきて、自分で手を伸ばして泥をニギニギと握ってみることができました。

最近ではすっかり慣れた様子で洗面器の中の泥を手でバシャバシャと叩いてみたり、泥だまりをブルドーザーのように手で押し出しながら高這いで進んだりと豪快に感触を楽しんでいます。



たんぽぽ組

1歳児クラス「泥でかくれんぼ」

裸足になって園庭に出ると地面が泥になっていました。保育士が「ドロドロしているよ」「きもちいいよ」と足踏みすると子どもたちも一緒に泥の中に入り、砂とは異なる感触に興味津々な様子です。手や足で触れて遊ぶ中で保育士が子どもたちの足元に泥をつけて「〇〇さんの足、いないいない」と言うと、泥で見えなくなった足元を見ては「ばあ！」と足を持ち上げています。足が泥で見え隠れする面白さを感じているようです。その後も夢中になって触れていると、いつの間にか顔や洋服にも泥水が付いていました。

いつもと異なる友達の姿をじっと見つめたり微笑んだり、「〇〇さん、かおについてるよー」と話したり、一緒に空間で遊ぶ友達とのやり取りも楽しんでいます。





ひまわり組

2歳児クラス 「おばけだぞお」

保育士がホースで庭に水を撒くと、地面にできた水たまりと土を両手で混ぜて泥を作って盛り上がる子どもたちです。そして両手に泥がつくと、園庭の壁や立てかけてあるバスマットに手形スタンプをして「みてみてー」と保育士に知らせてくれます。「わーすごいね。真っ黒」と保育士が驚いて見せると、「おばけだぞお〜」と真っ黒な両手を見せながらお化けになりきって保育士を驚かせてくれました。また、その様子を見ていた他の子は「おおかみだぞお」と真っ黒な手を保育士に向けながら追いかけてこが始まり、逃げる保育士をニコニコ楽しそうに追いかけていました。泥の感触を楽しみながらイメージしたものを自分なりに表現して楽しんでいます。



りす組

3歳児クラス「カニカニ温泉」

友達と一緒に砂場に大きな穴を掘り、水を何度も運んで大きな池が完成すると「そうだ、ここにカニを呼ぼう」と一人の子が言いました。面白そうな発想に「いいね」と周りの友達も加わります。池の隣にカニ用の穴を掘って水を入れ「カニカニ温泉の完成ー」と温泉が出来上がりました。さらに「カニが来るようにお団子を置いておこう」と泥団子を作り温泉の近くに置いておくと「カニカニ…」と声が聞こえてきます。なんと両手をはさみにしてカニになりきった子が温泉に入っていくのです。泥団子を仕掛けた子どもたちは「カニが来てくれた」と大喜びでした。ごっこ遊びが好きな子どもたちらしく、泥遊びの中でもイメージを持って遊ぶことを楽しんでいます。

うさぎ組

4歳児クラス「ダンゴムシ列車」

日頃からダンゴムシに夢中な子どもたちです。ある日ダンゴムシを園庭の砂場に持ち込み、汽車の玩具に乗せて「ダンゴムシ列車だよ」と走らせていました。そこへ友達が水を流し込んでくると、汽車のダンゴムシが水没しないように気を付けながら走らせるのでした。しばらくするとダンゴムシを虫かごに戻し、今度は自分たちが泥んこの水にダイナミックにジャンプして飛び込んでいました。ダンゴムシを水に入ると弱ってしまうということを理解していて、どうすれば一緒に遊べるか自分たちなりに考えていたようでした。



きりん組

5歳児クラス「米を育てる土」

5歳児クラスでは自分たちで田植えをして稲を育てます。稲の土には荒木田土を使います。土の塊を小さく砕き、たらいの中で少しずつ水を入れながら何度も両手で混ぜ合わせると、何とも言えないトロトロとした泥が出来上がります。親しんでいた園庭の泥とは違うきめが細かい泥の感触に「なにこれ〜」「気持ちいいから手に塗っちゃおう」「足入れてもいい?」と味わっています。稲を植える時には、「お布団みたいに優しい土だからお米も気持ちいいね、(だから)大きくなってね」と自分が両手両足で感じた心地よさを稲に置き換え、土のとりみや感触を実感していました。

